「これだけは知っておきたい双極性障害」

加藤忠史監修
翔泳社

双極性障害は昔は躁うつ病と呼ばれ、躁とうつの繰り返しで社会生活にダメージを与えてしまう病気です。再発予防には薬物療法と心理・社会的療法の両方が大切です。この本は必要な情報を分かりやすく簡潔にまとめています。本人は「うつ」がつらく家族は「躁」がつらいという事も分かりました。また生活リズムの乱れや睡眠不足やストレスも発症や再発の原因になります。家族や周囲の人の理解も必要です。

（松山玲子）

「妻はサバイバー」

永田豊隆著
朝日新聞社出版

家族会の方から借りた本で、迫力のある内容に一気に読んでしまいました。著者は朝日新聞記者として活躍している方です。結婚して四年目の二十九歳の時に奥様が発病しそれから二十年間、仕事と奥様の介護に明け暮れた苦闘の記録です。摂食障害、過食用の異常な食料購入、精神の変調、アルコール依存症、夫である著者に対する暴力、やっと医療とつながり入院治療が始まります。

壮絶な二十年間でした。職場のサポート、公的な介護にも支援してもらいきりぬけました。著者はいう「精神障がい者にとって障壁は社会の偏見と差別感情だと」読者に大きな示唆を与える本です。

（松山玲子）

資料が語る歴史

左の紙面は、文面から平成十六年元旦のタウンニュースと思われる。社会福祉法人成和会が運営する「地域生活支援センターはたの」の紹介記事である。平成十一年に開所した同センターは、精神障がい者の日常生活をサポートすべく、さまざまな相談に乗り、かつ気軽に集える場として平成十四年に秦野駅近くのマンションの一室に「地域生活支援センターはたの６０２」を開設（後に「すみれ」と改称）、元旦にはお雑煮を提供、就労体験談を聞く会を催すなど、精神障がい者にとってオアシスのような存在であった。「すみれ」は平成二十九年に閉所。その役割は、秦野市本町二丁目に新設された「秦野市地域生活支援センター　ぱれっと・はだの」に受け継がれている。そこでは「一般社団法人秦野市障害者地域生活支援推進機構」と「ＮＰＯ法人総合福祉サポートセンターはだの」が各種の支援に努めている。

新春特別企画

精神障害に正しい理解と対応を

社会福祉法人 成和会　地域生活支援センターはたの

地域の中心的存在
精神障害者の日常生活を全面サポート

求められる理解と対処

自分だけが特別ではない

イベントのご案内
● お雑煮の提供（無くなり次第終了）
場　所／地域生活支援センターはたの602
日　時／木曜日1日、1時から
● 特別企画！就労体験談を聞いてみよう
場　所／なでしこ会館5階和室
日　時／1月25日(日)1時30分から
ご家族様等、ご本人以外の参加もお待ちしております

社会福祉法人　成和会
地域生活支援センターはたの
はたの援護寮
はたの援産所
☎75-3962
三屋127-3
地域生活
支援センターはたの602
☎83-8855

編集後記

支援者が亡くなった後、当事者である家族は生きていけるのだろうか。その悩みに本紙面が参考になれば幸いである。「備えあれば憂いなし」（八木実）